

ずいそう

小さな挑戦（街道を歩く）

川本正之



山を登る

私は54歳のとき転勤で、神奈川県伊勢原市に住み勤務は厚木市でした。このあたりは丹沢山系が連なり、土日はもちろん平日でも熟年登山者が新宿方面からやって来る登山のメッカで知られています。私は、新入社員のころダム現場に赴任して、来る日も来る日も上司に連れられて、奈良県吉野郡十津川村から和歌山県の本宮町にかけての山々に登り、三角測量や地形測量に行っていました。だから、その後山登りなどは誘われても行かない主義を貫いておりました。

ところが転勤先の職場では、丹沢山系の一番東側に聳える「大山・1,252m」に新入社員研修とあって、4月中旬にベテランが引率して登るのが行事となりました。立場上これに付き合わざるを得ず、久しぶりに登山をしました。

この体験で、もちろん新入社員の速度には及びませんが、ベテランの引率者には十分ついていける自信を得たわけです。そこから遅咲きの登山者となり（実はこの時新品の登山靴を買った）休日には、一人で丹沢山系はもとより、「深田久弥の100名山」を目指して各地の（東北・北海道を除く）山に挑戦して、30山ほどを登ってきました。

さて、大山は間近に聳えており江戸時代は富士山に登れなくとも、大山にはと、江戸（東京）からの大山街道というのが今も残っています。各地の「講」も盛んであったようで登山道にはそれらを示す石碑がたくさん建てられています。各地の高い山へ登る訓練所として、7年勤務している間に36回ほど春夏秋冬を通して登っていました。ところがある寒い冬に登って、木々の葉っぱは落ちて富士山の眺望は素晴らしかったのですが、ただ、昼飯のおにぎりを食べても寒いので、何か冬季は別にやることがあるのではないかと考え出したのです。と言うことは、登山者としての資格はないわけです。

街道を歩く

江戸時代主街道といわれた一つに「東海道」があります。幸い小田急列車で行けば小田原まで直ぐのところに住んでおり、一度小田原から戸塚まで（約40km）の旧東海道を歩いてみようと思ったのが街道歩きに魅せられたはじまりです。

・400年前の大プロジェクト「東海道五十三次」

お江戸日本橋から京三条大橋まで、全長126里6丁1間、約492kmの道のり。広重が描き、弥次喜多が旅した東海道が、日本第一の幹線道路として本格的に整備されたのは、徳川家康の江戸開幕とほぼ時を同じくしています。関ヶ原の戦いに勝利した徳川家康は、幕藩体制を確立するための諸政策の一つとして、慶長6年（1601）に伝馬制を設けました。伝馬制とは、主要な街道に宿場を設置し、役人の往来や物資の輸送、情報の伝達のために、人や馬を提供させる制度で、現

代風にいえば「インフラの整備事業」というところでは、東海道・中山道・奥州街道・甲州街道・日光街道の五街道を制定。幕府はこれら幹線道路を支配していくとともに、街道の整備に着手しました。江戸と京都を結ぶ東海道は古代以来の交通路で鎌倉時代にはすでに幹線道路として利用され、江戸幕府にとって政治的、軍事的にきわめて重要な交通路でした。

「お江戸日本橋七つ立ち」と歌われる「七つ」とは、午前4時。昔の旅人は、まだ夜も明けきらない早朝に出発し、日暮れ前には宿についたようです。当時の人々は、日本橋から京三条全行程を、12日から15日で歩き、平均すると、10里（約40km）だったようです。足弱といわれた女性連れでも、一日平均6里（約23.6km）を歩いたようです。かつての旅人の健脚ぶりが窺えますが、これも順調にいったのこと、川止めや災難にあえば予定は延び、また場合によっては命がけの旅であったようです。

さて、旧東海道を2年半のうちの、土日祭日を利用して全行程を踏破したのは昔の人の健脚に挑戦しての15日間でした。その後、中山道（約533km）、甲州街道（約216km）、続いて日光街道（144km）、そして昨年夏、奥州街道（約810km）を踏破して、今年北国街道（北陸街道）に挑戦しております。

東海道歩きも終盤を迎えた、滋賀県の水口宿の入口に次の標識が立っており、気に入ってメモしてきたものです。

「古い街道には、いにしえ人の気配があります。その曲がりくねった道筋に、路傍の道標に歴史があります。あるときは、戦の道となって人馬どよめきあるときは、参宮の道となって賑やかな歌声に包まれたであろう、この東海道は遠い昔に、その役割を終え、今や暮らしの道として、風景の中にのびています。」

最後に、道路管理者へのお願いです。①各県境の橋梁部分には突然歩道部分がなくなり（極端な例は両サイドとも）、大袈裟ではなく大型トラックの行き交う今日、命がけで走って渡らなければならないのが殆どです。②なるべく旧道を探して歩くのが基本ですが、現在はどうしてもバイパスに連れて行かれます。自動車優先を嫌でも知らされ、横断跨道橋や、地下道は、是非疲れた歩行者のために横断歩道にしてもらいたい。③歩道がまちまちで、まだまだラインだけ引いてある箇所が多くある。せめて片側だけでも結構ですから安全な歩道の設置をお願いしたい。④どこを歩いていても、黄色い車の道路パトロール車を見かけますが、たまには歩いて（歩行者の気分になって）パトロールをお願いします。如何に歩道のない道路が危険か、ご理解いただけると幸いです。「安全安心」のスローガンに恥じない、歩行者に優しい道路に改良されることを切望します。